

事務事業名		青少年地域活動事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	相互に理解し、尊重し合う地域社会の実現			事業期間		予算科目				
	施策名	共に生きる地域づくりの推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	自主的な地域活動の促進					01	10	05	04	13
根拠法令											
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和61 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	中央公民館	電話	26-3166							
			内線	432							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・地域公民館と連携し、各種事業を通じて、家庭や地域の教育力の向上と青少年の健全育成を図ることを目的とした事業。地区公民館より推薦された地域を指定地域としている。事業の実施は公民館役員やPTA関係者等で組織する運営委員会が中心となって進める。それとは別に、子どもたちや子ども会等の自主活動の活発化を図る目的で、中央開催分として年2回程度の事業を行う。 ・主な業務は次のとおり。 指定地域開催分:指定地域合同説明会・運営委員会の組織と事業計画の立案に関する指導、事業の展開にあたっての助言など。 中央公民館開催分:事業の企画・講師との交渉・事業計画の策定・事業の展開。 ・事業費は、講師謝金等に支出される。						全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
・指定地域開催分 指定地域合同説明会・運営委員会の組織と事業計画の立案に関する指導、事業の展開にあたっての助言など ・中央開催分 事業の企画・講師との交渉・事業計画の策定・事業の展開		ア	指定地域数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	中央公民館開催分事業回数
・前年度と同じ様に実施する予定だったが、東日本大震災による事業の一部見直しで指定地域開催分を休止し、中央開催分のみ実施する。		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・指定地域の小中学生、またその保護者や地域の住民 ・中央開催分は、市内全体の小中学生		名称	
		単位	
		カ	指定地域活動名簿登録者数
		キ	市内全体の小中学生数
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・地域活動への、子どもを含めた住民の積極的な参加と協力を促し、家庭や地域の教育力の向上を図る。 ・子どもは地域で育てるという意識を高める。		名称	
		単位	
		サ	実施事業数
		シ	指定地域延べ事業参加者数
		ス	中央開催分延べ参加者数(見学は含まない)
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
・自主的に地域活動に参加してもらう。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	事業費	国庫支出金						
		都道府県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源	1,032	545	353	306	252	262
	事業費計(A)		1,032	545	353	306	252	262
	人件費	正規職員従事人数	5	5	4	5	5	5
		延べ業務時間	150	170	170	160	150	160
		人件費計(B)	600	680	680	640	600	640
	トータルコスト(A)+(B)		1,632	1,225	1,033	946	852	902
活動指標	ア	地域	6	6	5	6	5	6
	イ	回	8	8	2	2	2	2
	ウ							
対象指標	カ	人	297	273	164	236	236	153
	キ	人	3920	3879	3860	3616	3464	3454
	ク							
成果指標	サ	回	96	100	57	93	63	113
	シ	人	2801	4201	1996	3831	2168	2067
	ス	人	136	136	33	44	50	78

事務事業ID	0871	事務事業名	青少年地域活動事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

地域における子どもたちを中心とした活動を支援し、世代間の交流を図るとともに、自然や郷土に対する理解を促し、青少年の健全育成を図るために昭和61年度から開始した。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

社会環境が急激に変化する今日において、青少年の健全育成が大きな課題となっている背景は以前として変わらず、このような事業に対する理解は増えている。

少子化が進展する中、事業運営が困難な地域も増え、青少年に対する地域の役割は益々重要になっている。

平成23年度は東日本大震災による事業の一部見直しにより、指定地域開催を休止した。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

指定を受けた地域の役員等からは、事業を運営していくことは大変なことも多いが、地域の方の参加や協力を仰ぐことで住民同士の結びつきが強まったなどの意見があった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 豊かな心を育む人づくりの一助となっている。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 子どもを中心とした地域活動をその地域に根付かせるためには、本事業のようなきっかけが必要。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 地域単位での対象であり、妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] クラブ活動等のため指定地域の中学生の参加が少ないので参加者数を増加させる余地はある。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 子ども同士や世代間で触れ合う機会が少なくなる。また、自然や郷土文化に親しむ機会が少なくなることが考えられる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 他に類似事業がない。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業規模が小さくなり、効果も期待できなくなる。また必要最小限の事業費で実施している。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 最低限の所要時間で行っていること、地域の多大な協力を得ながら実施しており、削減は難しい。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 受益者負担はないが、様々な場面において地域が有償無償の支援を行っている。

事務事業ID	0871	事務事業名	青少年地域活動事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 指定地域の中学生の参加が少ない状況にあることから、成果の向上の余地がある。 中央開催分の参加募集方法の工夫により、申込者数が募集定員に達した。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 青少年期の行動パターンもあり、かなり困難な課題であるが、押し付けでない高校生や中学生が地域に溶け込みやすく、積極的に参加できる事業計画等の作成検討。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	●		×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 クラブ活動等で指定地域の参加する中・高生が少ないので、中・高生向けの事業等について検討が必要。公民館運営審議会等で取り上げられているが、具体的な改善策は出されていない。 地域活動の重要性を小・中学校に理解してもらうため、開・閉講式に小・中学校長を招待し、地域活動をする児童、生徒を見てもらう。																								

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	生涯学習課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																							
記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務事業執行がなされている。中学生がクラブ活動等により参加が少ないのはやむを得ない。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事務事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○	●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	○	●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項